

事業報告書

第2期(2016年度)

自 2016年 4月 1日
至 2017年 3月31日

特定非営利活動法人メディカルイメージラボ

2016年度 事業報告

1. 遠隔画像診断支援事業

- ・ 2016年度読影総件数は57,180件で対前年月間平均読影件数は2.1%増となった。(資料01参照)
- ・ 読影遅延の回避策として2016年12月より(株)ネットホスピタルとの協業を開始した。
- ・ 2016年度の読影医数(ネットホスピタルを除く)は42名であった。
- ・ 遠隔画像診断支援事業の経常収益は162,946,461円、経常費用は143,372,836円、当期経常増減額は19,573,625円であった。

2. 遠隔放射線治療支援事業

- ・ 2016年度治療支援総件数は1,685件で対前年月間平均治療支援件数は1.3%増となった。(資料02参照)
- ・ 2016年度の治療支援医師数は11名であった。
- ・ 遠隔放射線治療支援事業の経常収益は10,936,570円、経常費用は10,642,934円、当期経常増減額は293,636円であった。

3. 医学研究・医学教育支援事業

- ・ 昨年度に引き続き北海道大学から「肝嚢胞に対する球状塞栓物質を用いた肝動脈塞栓術治療の有効性および安全性を検討する多施設共同臨床試験」において得られる画像データの解析・評価業務を受託した。
- ・ 資料03に示すとおり延べ14回の研究会を開催した。
- ・ (株)日立製作所から放射線治療用研究資金として100万円の寄付を受けた。
- ・ 放射線に関わるセミナーの共催、市民向け放射線治療に係わる公開講座を共催、放射線技師会が開催する教育講座等の共催については時間的な余裕が無く開催しなかった。
- ・ 医学研究・医学教育支援事業の経常収益は4,938,508円、経常費用は3,515,473円、当期経常増減額は1,423,035円であった。

4. 共同研究型医療用システム及び医療材料・医療器材の研究開発事業

- ・ 一般読影と健診読影を別けずに健診2件を1件と勘定して配分するシステム変更についてはキヤノン側の開発予定が間に合わず持ち越しとなった。
- ・ 問題レポートの報告をスムーズに行うためMIPレポート画面下段に「レポート内容相談」というボタンを設ける件についてはキヤノン側の開発予定が間に合わず持ち越しとなった。

裏面に続く

表面から続く

- ・ 過去の画像/依頼/レポートを参照しているときにコメントボタンを押して問題点を記載出来るようシステム変更する問題についてはキャノン側の開発予定が間に合わず持ち越しとなった。
- ・ JMAC 製 XTERK の自宅読影用システムの開発協力、評価を終了し、2017年5月から販売開始となった。
- ・ 医学研究・医学教育支援事業の経常収益は0円、経常費用は0円、当期経常増減額は0円であった。

5. その他

- ・ 認定NPOについては会員数の増員、寄付金額の達成が難しく、再検討が必要であると判断した。

以上